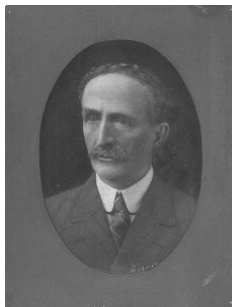
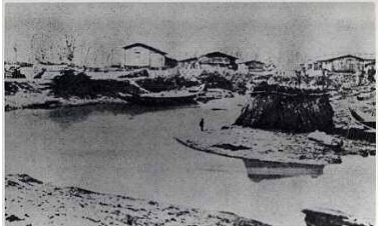


■【参考】関連文化財群及びストーリーに關係する人物（大友堀）

番号	人物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等
1	大友亀太郎	- 札幌村開拓と「大友堀」を開鑿した人物。 - 同郷である二宮尊徳の元で学びたいと弟に家督を譲り、22歳で二宮尊徳に入門し、土木・測量などを学んだ。 - 慶応2年(1866年)には石狩原野の開拓を命じられ、「大友堀」と札幌村開拓を主導した。	
2	二宮尊徳	- 江戸後期の農村改革者で、経済と道徳の融和を訴え、私利私欲を抑えて社会のために貢献する「報徳」という思想を実現・実践していた。 - 栢山村^{かやま}の農業改革に尽力し、その豊富な農業知識が認められ、「報徳仕法」という独自の方法と理念に基づいて、小田原藩領をはじめ諸藩諸村の農地（荒地）を改良して、農村の復旧に努力した。	 ※報徳博物館提供
3	島義勇	- 佐賀藩士として蝦夷地調査を行った島義勇は、明治となり開拓判官に任命された。 - ロシアの南下に対抗し北海道開拓を進める観点から、開拓の本拠地は箱館ではなく、石狩国（札幌）に置かれることとなった。明治2年(1869年)、札幌に本府を建設する構想を描き、建設に着手した。 - 本府建設の建設費などを巡って、翌年の明治3年(1870年)に大学少監に転任した。	 ※北海道大学附属図書館所蔵

番号	人物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等
4	岩村通俊	・明治2年(1869年)、開拓使の判官となり、同4年には島義勇の後を継いで札幌に常駐し、札幌本府の建設に精力を傾けた。 ・札幌創建に弾みをつけた人物で、仮本庁、官邸、倉庫、宿舍、さらには偕楽園、薄野遊郭などを設けた。 ・明治19年(1886年)、北海道庁が置かれ、初代長官となった。	 ※北海道大学附属図書館所蔵
5	ウィリアム・ペン・ブルックス	・ウィリアム・ホイーラーの後任として札幌農学校第4代教頭に就任したお雇い外国人。 ・タマネギの紹介やとうもろこし、かぼちゃ、燕麦、キャベツ、亜麻、ビート、トマト、コーンなどの導入に努力し、家畜・農業機械・種子の輸入や土地・気候・肥料などの試験により最適の作物の選定・栽培法の検討等を実施した。	 ※北海道大学附属図書館所蔵

■【参考】関連文化財群及びストーリーに係る歴史上の事物（大友堀）

番号	事物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等一覧
1	御手作場の開発	・幕府によって蝦夷地(現・北海道)に設置された農場。 ・大友亀太郎が担当者となり、慶応2年(1866年)、現在の元町付近に石狩御手作場を開いた。	-
2	南3条付近を流れていた胆振川	・明治の初めまで、現在の札幌都心部には、豊平川の支流である胆振川とその多くの分流が流れていた。 ・「大友堀」は南3条付近から取水していた。	-
3	フシコサツホロ川(現・伏籠川、伏古川、伏籠川)	・「大友堀」は豊平川の分流から取水して、フシコサツホロ川に注いでいた。 ・フシコサツホロ川は、現在は伏古川となり、東区及び北区を流れる一級河川となっている。	

番号	事物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等一覧
		・流域はその肥沃な沖積土壌によって、全国的にも有名な玉ねぎ生産地として知られている。	※北海道大学附属図書館所蔵
4	後志通(現・大通)などの町名	・開拓使は明治5年(1872年)に、道内の国郡名をとって町名とし、現在の大通を後志通とした。 ・後志通のほか、浜益通(現・北1条通)、渡島通(現・南1条通)などがあった。 ・国郡名をとった名称は明治14年(1881年)に廃止、現在の条丁目に変更され、後志通から大通に改称された。	-
5	寺尾堀(現・創成川の一部)	・「大友堀」の北側に寺尾秀次郎によって掘られた堀。 ・現在は創成川の一部となっている。	-
6	吉田堀(現・創成川の一部)	・「大友堀」の南側に吉田茂八によって掘られた堀。 ・現在は創成川の一部となっている。	-
7	創成橋	・明治4年(1871年)、現在の南1条の「大友堀」に架けられた橋が岩村通俊判官により創成橋と名付けられた。 ・写真は、1871年撮影。	 ※北海道大学附属図書館所蔵